

令和4年度全国学力・学習状況調査

本県の結果と今後の対策

【中学校】

令和4年11月30日

青森県教育庁学校教育課

令和4年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と今後の対策【中学校】

目 次

I 全体概要	1
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況	1
3 質問紙調査結果から見える要因	2
II 国語	3
1 教科全体の結果	3
2 領域別の正答率	3
3 問題別集計結果	4
4 問題別集計結果の状況	5
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	7
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況	8
7 指導改善のポイント	9
＜令和3年度県学習状況調査を踏まえて（国語）＞	
III 数学	2
1 教科全体の結果	1
2 領域別の正答率	1
3 問題別集計結果	3
4 問題別集計結果の状況	4
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	6
6 学校質問紙調査の結果から見える数学の指導状況	7
7 指導改善のポイント	8
＜令和3年度県学習状況調査を踏まえて（数学）＞	
IV 理科	2
1 教科全体の結果	2
2 領域別の正答率	2
3 問題別集計結果	3
4 問題別集計結果の状況	4
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況	7
6 学校質問紙調査の結果から見える理科の指導状況	8
7 指導改善のポイント	9
＜令和3年度県学習状況調査を踏まえて（理科）＞	
V 質問紙調査	3
1 生徒質問紙調査の結果と今後の対策	2
2 学校質問紙調査の結果と今後の対策	8

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいです。

なお、本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、文部科学省から配布された『令和3年度全国学力・学習状況調査【小学校】又は【中学校】調査結果』（ダウンロード版）を参照してください。

また、国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の報告書や調査結果を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

* 本報告書の用語や記号等について *

本報告書中の用語や記号等については、次のような意味で使用しています。

「全国平均との差」

：「今年度の本県の平均正答率－今年度の全国の平均正答率」の式で求めた値。本県が全国を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「前年度との差」

：「今年度の本県の平均正答率－令和3年度の本県の平均正答率」の式で求めた値。今年度が令和3年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

「過年度との差」

：隔年で質問されている項目へ対応するため、「今年度の本県の平均回答率－令和3・平成31・30・29年度の本県の平均回答率」の式で求めた値。今年度が過年度を上回っていれば「+」、また、下回っていれば「-」で表示しています。

※本県の平均正答率は「%」で、過年度との差については「ポイント」で表しています。

「□」：概況を示しています。

「▼」：課題を示しています。

「◆」：今後の方向性や対策・指導等を示しています。

「★」：肯定的な回答と教科の相関があることを示しています。

「**数字**」：本県の平均正答率が、対比している値に対して5ポイント以上下回っていることを示しています。

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日

令和4年4月19日(火)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科

小学校 国語(45分) 算数(45分) 理科(45分)

中学校 国語(50分) 数学(50分) 理科(50分)

② 質問紙

児童生徒質問紙調査

学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 250校(全国 18,671校)

中学校参加校数 本県 148校(全国 9,348校)

(4) 参加児童生徒数

小学校児童数 本県 8,314名【国語】(全国 965,308名)

8,308名【算数】(全国 965,431名)

8,311名【理科】(全国 965,761名)

中学校生徒数 本県 8,388名【国語】(全国 891,820名)

8,391名【数学】(全国 891,913名)

8,393名【理科】(全国 892,585名)

2 教科ごとの状況

本県の公立小・中学校の児童生徒の学力の状況は、全ての教科で、平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。

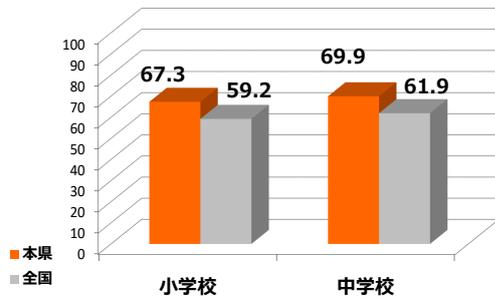
	令和4年度	
	平均正答率(%)	
	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	68	65.6
小学校算数	63	63.2
小学校理科	66	63.3
中学校国語	69	69.0
中学校数学	52	51.4
中学校理科	49	49.3

3 質問紙調査から見える要因

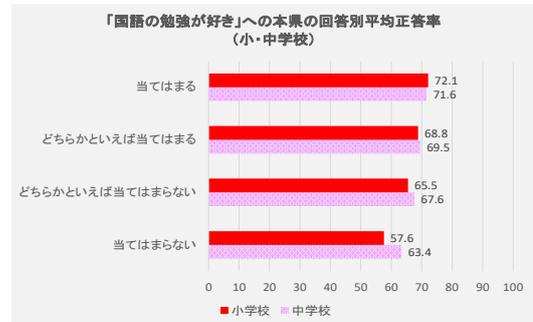
ここでは、本県の調査結果に係る要因の1つとして「各教科に対する興味・関心について」を取り上げます。その他の要因については、各教科の頁を参照してください。

要因につながるデータ

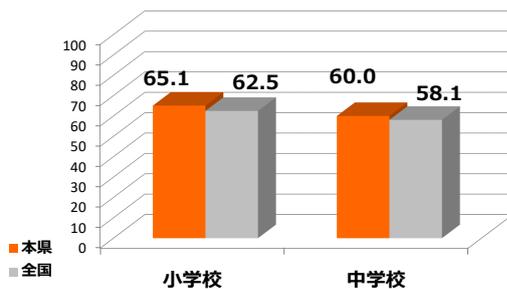
【国語の勉強は好きか】



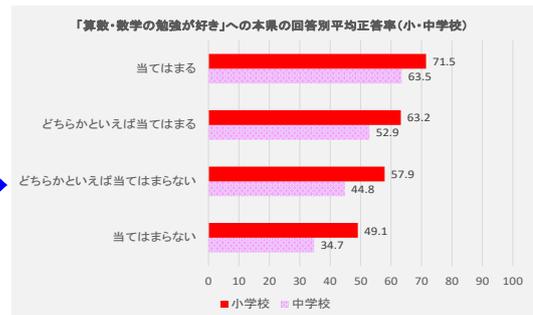
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



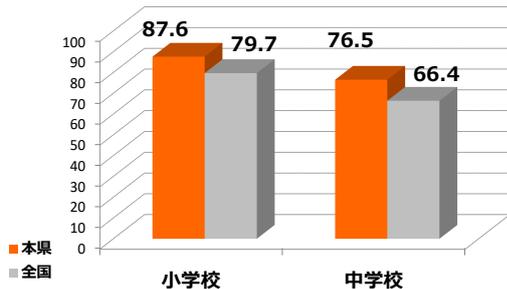
【算数・数学の勉強は好きか】



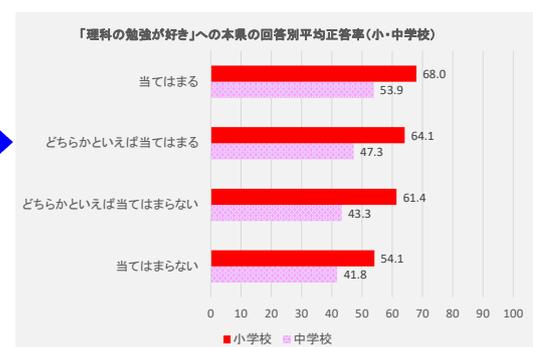
【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した児童生徒の割合(%)】



【理科の勉強は好きか】



【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】



- 本県の児童生徒は、各教科の学習に対する興味・関心が全国平均を上回っている。
- 各教科の学習に対する関心が高い児童生徒は、各教科における平均正答率も高い傾向にある。
- ◆今後も、児童生徒の各教科の学習に対する興味・関心を高める働きかけを工夫するとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進め、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に努めることが肝要である。

II 国語

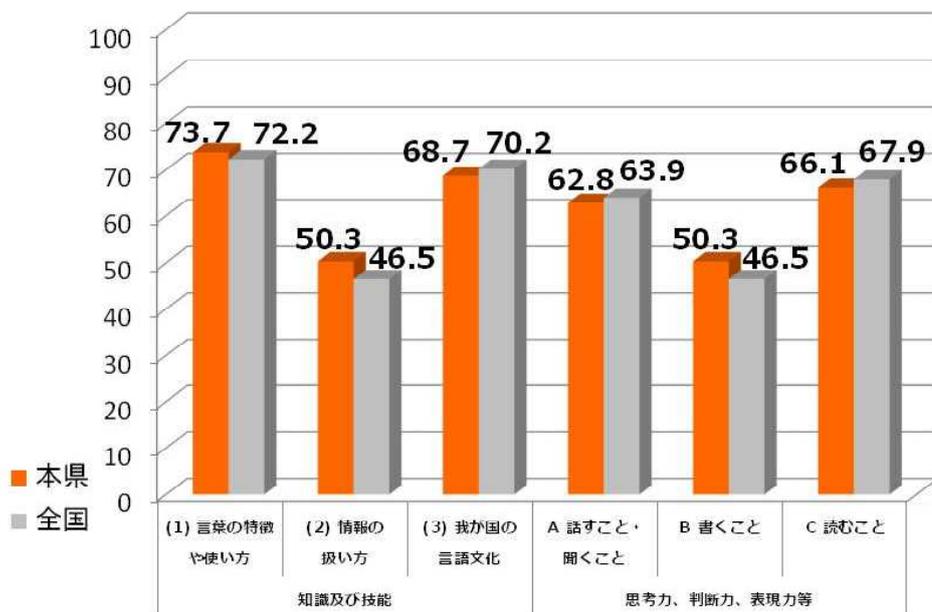
I 教科全体の結果

国語の平均正答率(%)		
青森県	全国平均との差	令和3年度全国平均との差
69	±0	+1.4

□ 国語全体としては、本県は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率(%)			
		青森県	全国平均との差	令和3年度全国平均との差	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.7	+1.5	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	50.3	+3.8	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	68.7	-1.5	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	62.8	-1.1	±0
		B 書くこと	50.3	+3.8	+1.8
		C 読むこと	66.1	-1.8	+0.9
評価の観点	知識・技能	69.9	+0.9		
	思考・判断・表現	61.8	-0.5		
	主体的に学習に取り組む態度				



□ [知識及び技能]の領域においては、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」、「(3)我が国の言語文化に関する事項」の平均正答率は全国平均と同程度であり、「(2)情報の扱い方に関する事項」の平均正答率は全国平均をやや上回っている。また、[思考力、判断力、表現力等]の領域においては、「A話すこと・聞くこと」、「C読むこと」の平均正答率は全国平均と同程度であり、「B書くこと」の平均正答率は全国平均をやや上回っている。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)					
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県（公立）	全国（公立）	全国（公立）との差
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと									
1一	スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す	聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する			1ウ				○		○		75.1	74.7	0.4		
1二	話の進め方のよさを具体的に説明したものととして適切なものを選択する	論理の展開などに注意して聞く			2エ				○		○		61.7	65.1	-3.4		
1三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア		1ウ			○	○			○	51.7	51.8	-0.1		
2一	意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する	助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使う	2オ					○			○		81.0	82.3	-1.3		
2二①	漢字を書く（ <u>のぞく</u> ）	文脈に即して漢字を正しく書く	2ウ					○			○		87.7	82.1	5.6		
2二②	漢字を書く（ <u>よるこんで</u> ）		2ウ					○			○		83.5	80.5	3.0		
2三	農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く	1イ		1ウ			○	○		○		50.3	46.5	3.8		
3一	「隅炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する	表現の技法について理解する	1オ					○			○		54.3	52.5	1.8		
3二	「塗方に暮れた」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解する	1ウ					○			○		84.2	84.0	0.2		
3三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える					1イ		○			○	58.4	62.0	-3.6		
3四	「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する					1ウ		○			○	73.9	73.8	0.1		
4一	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものととして適切なものを選択する	行書の特徴を理解する			1エ(4)				○		○		37.8	39.4	-1.6		
4二	最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものととして適切なものを選択する	漢字の行書の読みやすい書き方について理解する			2ウ(7)				○		○		88.7	90.1	-1.4		
4三	書き直した文字の「と」の書き方について説明したものととして適切なものを選択する	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する			2ウ(7)				○		○		79.6	81.1	-1.5		

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

[知識及び技能]

○言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・【2二①】文脈に即して漢字を正しく書く(対全国比:+5.6)
- ・【2二②】文脈に即して漢字を正しく書く(対全国比:+3.0)
- ・【3一】表現の技法について理解する(対全国比:+1.8)

○情報の扱い方に関する事項

- ・【2三】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く(対全国比:+3.8)

[思考力、判断力、表現力等]

○話すこと・聞くこと

- ・【1一】聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する(対全国比:+0.4)

○書くこと

- ・【2三】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く(対全国比:+3.8)

▼課題であること

[知識及び技能]

▼我が国の言語文化に関する事項

- ・【4一】行書の特徴を理解する(対全国比:-1.6)
- ・【4二】漢字の行書の読みやすい書き方について理解する(対全国比:-1.4)
- ・【4三】漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する(対全国比:-1.5)

[思考力、判断力、表現力等]

▼話すこと・聞くこと

- ・【1二】論理の展開などに注意して聞く(対全国比:-3.4)

▼読むこと

- ・【3三】場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える(対全国比:-3.6)

学習指導に当たって

[知識及び技能]

我が国の言語文化に関する事項

・楷書の学習を踏まえ、行書の特徴を理解して書く

直線的な点画で構成されている漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなどといった行書の特徴を理解して書く必要がある。その際、楷書で書いた漢字と比較するなど、これまで学習してきたことを踏まえて指導することが大切である。また、筆脈を意識した点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。

・字形を整え、文字の大きさ、配列などに注意して書く

行書の文字に書き慣れ、各教科等の学習や生活の中で読みやすく速く書くためには、漢字の行書の基礎的な書き方を理解し、読み手への伝達を意識して書く必要がある。その際、これまでの書写の学習で身に付けた知識や技能を生かし、字形や文字の大きさ、配列などに配慮して書くように指導することが大切である。

・筆脈を意識して、漢字の行書と仮名を調和させて書く

漢字の行書とそれに調和した仮名を書くためには、筆脈を意識して、行書の特徴に調和する仮名の書き方を理解して書くことが大切である。その際、楷書に調和する平仮名の書き方を踏まえ、一層筆脈を意識して書くよう指導することが重要であり、行書特有の筆脈の連続や運筆のリズムを理解できるように、毛筆を活用することが有効である。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

・情報同士の結び付きに注意しながら聞く

話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり、意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くことが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」との関連を図り、意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方について理解を深めるように指導することが有効である。

・音声の働きや仕組みを理解しながら表現を工夫して話す

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すためには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や問の取り方、言葉遣いなどに注意したりするなどして、表現を工夫することが大切である。指導に当たっては、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。」との関連を図り、アクセント、イントネーション、プロミネンス（文中のある語を強調して発音すること）などの音声的特質が多様な声を作り出し、話したり聞いたりする活動に影響していることが認識できるように、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。

読むこと

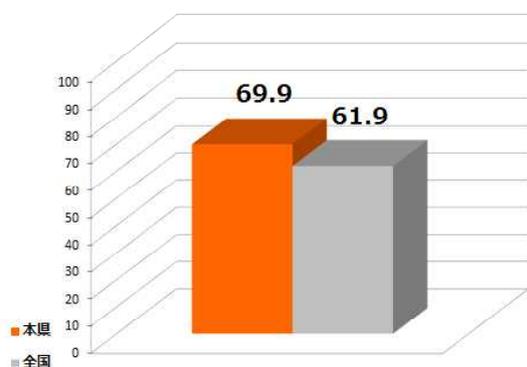
・文章の展開に注意しながら、叙述に即して文章の内容を把握する

文学的な文章を読む際には、文章の中の時間的、空間的な場面の展開、登場人物の相互関係や心情の変化、行動や情景の描写などに注意しながら読み進めることが大切である。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」との関連を図り、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが有効である。

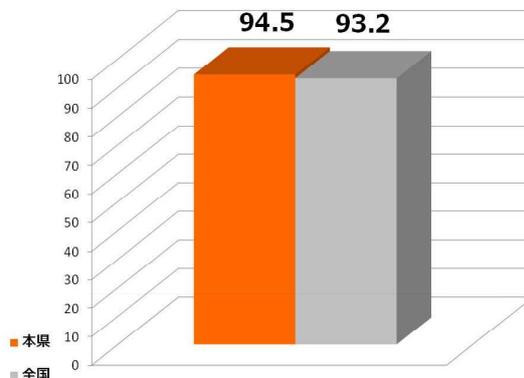
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】

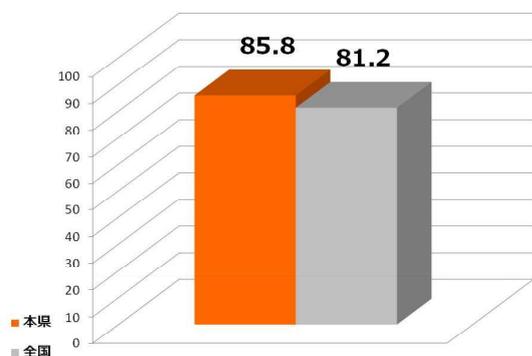
【(49) 国語の勉強は好きか】



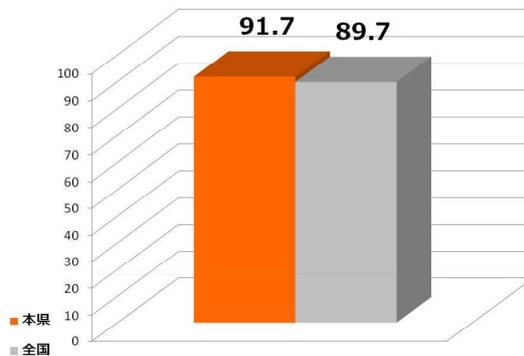
【(50) 国語の勉強は大切か】



【(51) 国語の授業はよく分かる】



【(52) 国語の学習は、将来役に立つ】

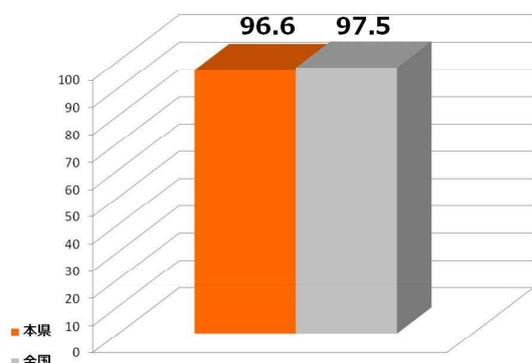


- 本県の生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況にあり、国語の勉強が好きだと思っている生徒は全国平均を上回っている。
- 約9割の生徒が、国語の勉強は大切であり、授業で学習したことは、将来役に立つと考えている。

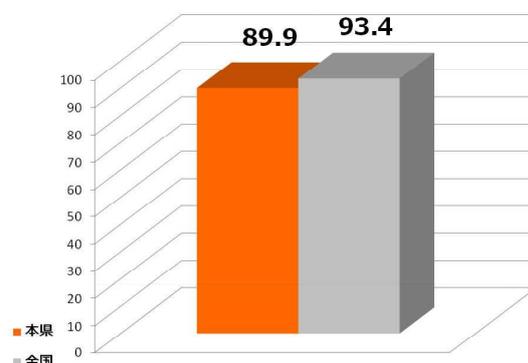
6 学校質問紙調査の結果から見える国語の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】

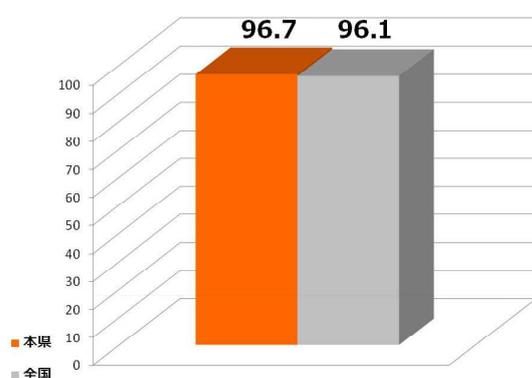
【(39) 言葉の特徴や使い方の知識を理解したり使ったりする授業を行った】



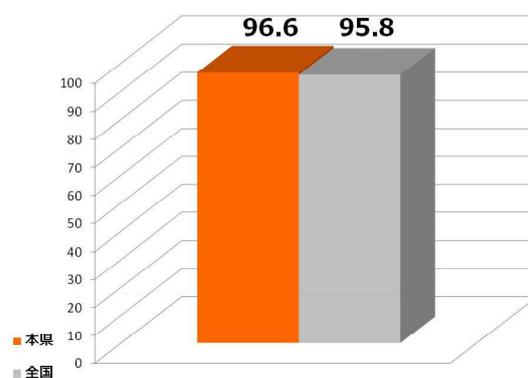
【(40) 目的に応じて自分の考えを話したり質問したりする授業を行った】



【(41) 根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業を行った】



【(42) 文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする授業を行った】



□言葉の特徴や使い方の知識を理解したり使ったりする授業、根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業及び文章を読み内容を解釈して考えを広げたり深めたりする授業には、9割以上の学校で取り組んでいる。

▼目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業への取組が全国平均を下回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

[知識及び技能]

情報の扱い方に関する事項

◆ 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、使えるようにする指導の充実

引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、言語活動の中で使うことができるようにすることが必要である。そのために、本や資料から文章や図表などを引用する必要がある言語活動の中で、引用の際には引用箇所をかきかっこ(「 」)でくくること、出典を明示すること、引用部分を適切な量とすることなどについて確認するとともに、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切である。

我が国の言語文化に関する事項

◆ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書けるようにする指導の充実

伝達性や表現性などを考えながら、目的や必要に応じて効果的に文字を書くためには、楷書だけではなく、行書の基礎的な書き方を身に付けることが必要である。そのために、「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」などの行書の特徴を、伝統的な文字文化とも関連させながら理解し、それぞれがどのような書き方なのかを具体的に捉えて、実際に書くことができるように指導することが大切である。

[思考力、判断力、表現力等]

話すこと・聞くこと

◆ 自分の考えが分かりやすく伝わるように、工夫して話す指導の充実

自分の考えを聞き手に分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立ち、どのような工夫が効果的なのか考え、工夫して話すことができるようにすることが必要である。第1学年では、相手の反応を踏まえながら、第2学年では、資料や機器を用いるなど、第3学年では、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、様々な工夫があることを理解し、実践できるように指導を重ねることが大切である。

書くこと

◆ 自分の考えが分かりやすく伝わるように、根拠を明確にして書く指導の充実

自分の考えが伝わる文章を書くために、自分の考えとそれを支える根拠とのつながりに留意して、工夫して書くことができるようにすることが必要である。第1学年では、根拠という概念があることを理解した上で根拠を明確にしなが、第2学年では、根拠が自分の考えを支える上で適切かどうかを考えながら説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなどして、第3学年では、表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして、自分の考えを記述することができるよう、系統的に指導することが大切である。

読むこと

◆ 叙述に基づいて内容を理解して読む指導の充実

文学的な文章を読んで、自分の考えを形成するには、まず、言葉を手掛かりに文脈をたどり、書かれている内容を理解できるようにすることが必要である。第1学年では、描写を基に場面の展開や登場人物の心情の変化などを、第2学年では、文章全体と部分との関係に注意しながら登場人物の設定の仕方などを、第3学年では、文章の種類を踏まえて物語の展開の仕方などを捉えることができるように、教材の特性を生かして指導することが大切である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する授業構想

◆ 指導事項が示している資質・能力の育成に効果的な言語活動の創意工夫

国語科の学習では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指している。

単元のまとまりを見通した学習の中に、言語活動を設定することで、生徒は「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」を相互に関連付けながら学習することができる。そのような学習の過程では、生徒が自らの学習の進め方を調整したり粘り強く取り組んだりすることとなる。他の生徒と考えを共有して対話したり、自分の考えを再構築したりするなど、課題の解決に向けて、生徒が主体的に試行錯誤する場面が生まれ、生徒の資質・能力の育成につながるのである。

したがって授業構想に当たっては、各学習過程でどのような資質・能力を育成するのかをしっかりと押さえ、効果的な言語活動を設定することが大切になる。

◆ 「指導と評価の一体化」による指導の改善・充実

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を伸ばす授業を実現するためには、単元の目標を明確にした「指導と評価の一体化」を図ることが不可欠である。そのために、単元ごとの目標と内容を分析し、どのような資質・能力を育成するのかというねらいを明確にした、観点別学習状況の具体的な評価規準を設定するとともに、評価場面と評価方法を明らかにする必要がある。

特に重要であるのが、当該指導事項の内容を踏まえた「Bと判断する状況」の具体的な想定と、学習の目標、自己評価・相互評価のポイント、教師による評価の一貫性である。評価の一貫性が保たれることで、生徒は資質・能力を身に付けるという目的を自覚しながら学習を進めることができ、一貫した視点での評価がフィードバックされることで、学習の改善に向かうことができるからである。

また、学習評価では、前に比べて進歩した部分を積極的に認め学習の意義を実感させるコメントや声かけを行うなどの個人内評価と、目標に準拠した評価のフィードバックをバランスよく行い、生徒の学習改善、教師の指導改善につなげていくなど、「指導と評価の一体化」による指導の改善・充実を日常的に図ることが重要である。

〈令和3年度県学習状況調査を踏まえて(国語)〉

令和3年度県学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は「読むこと」に課題があると分析した。

「読むこと」領域については、文学的な文章において、文章中における表現の工夫について、「表現の効果を、文脈における擬態語の意味と誤って捉えた」「文脈に即した擬態語の効果を考えていない」など、設問の内容や意図を理解していない生徒が多かった。課題として、表現の効果とはどういうことなのか、また、表現の効果についての自分の考えを支える根拠はどこなのかを理解していないことが考えられる。今後の指導に当たっては、まずは文章の内容を伝えたり印象付けたりするための表現の働きについて考え、理解させることが必要である。また、表現の効果について自分の考えを書いたり発表したりする際に、自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げるなどして、根拠を明確にすることが大切である。

説明的な文章においては、文章に表れている筆者の考え方について、各段落の役割、筆者の論の展開、言葉の使い方に注意しながら読み、文章中の語句を補充する問題について、予想される必要な情報を正しく読み取れず、間違えて抜き出している誤答が多かった。課題として、目的に応じて必要な情報を整理(要約)し、自分の考えをもつ力が不足していることが考えられる。今後の指導に当たっては、目的に応じて必要な情報に着目して要約させた上で、理解したことを他者に説明させたり、他者の考えの根拠等に触れさせたりして自分の考えを振り返らせるなどの活動を積極的に取り入れていくことが大切である。

【令和3年度学習状況調査実施報告書より】

令和4年度の全国学力・学習状況調査においても、「C読むこと」領域において、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることに課題が見られた。

文学的な文書を読む際には、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることが必要である。表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要であり、描写の仕方や表現の技法などに着目することが考えられる。その際、作品の特性に応じて、第1学年〔知識及び技能〕の(1)「オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。」などとの関連を図ることが有効である。

また、文学的な文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが大切である。その際、作品の特性に応じて、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。」などとの関連を図ることが有効である。

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。また、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも重要である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和3年度学習状況調査実施報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

Ⅲ 数学

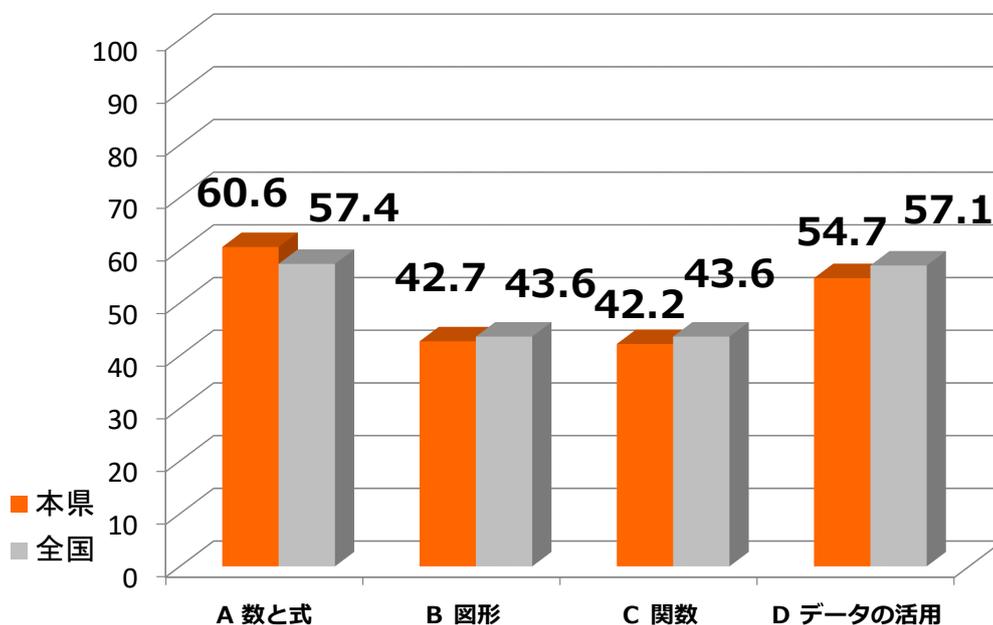
Ⅰ 教科全体の結果

数学の平均正答率(%)		
青森県	全国平均との差	令和3年度全国平均との差
52	+0.6	-1.2

□ 本県の数学の平均正答率は、全国と同程度である。

Ⅱ 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率		
		青森県	全国比	令和3年度全国平均との差
学習指導要領の領域	A 数と式	60.6	+3.2	-0.4
	B 図形	42.7	-0.9	-2.4
	C 関数	42.2	-1.4	+0.2
	D データの活用	54.7	-2.4	-0.6
評価の観点	知識・技能	61.1	+1.2	
	思考・判断・表現	34.3	-1.9	
	主体的に学習に取り組む態度			



- 数と式の領域において、平均正答率は全国平均をやや上回っている。
- 関数とデータの活用の領域において、平均正答率は全国平均をやや下回っている。
- 図形の領域において、平均正答率は全国平均と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	青森県(公立)	全国(公立)	全国との差
1	42を素因数分解する	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア,イ				○				○		68.3	52.2	16.1
2	連立二元一次方程式を解く $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ア (ウ)				○				○		78.4	74.5	3.9
3	ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2) ア (イ)				○				○		47.4	44.9	2.5
4	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(ア)		○				○		39.2	37.9	1.3
5	容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ	多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している				1(2) ア (ア)	○				○		81.3	83.3	-2.0
6 (1)	同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときどのような計算を表しているかを書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	2(1) ア (イ)				○				○		72.7	73.8	-1.1
6 (2)	差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ (イ)				○				○		48.6	48.7	-0.1
6 (3)	ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ (イ)				○				○		35.0	37.6	-2.6
7 (1)	コマ回し大会で使用するコマを Histogram の特徴を基に選び、選んだ理由を説明する	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる				1(1) イ (ア)	○				○		42.2	44.0	-1.8
7 (2)	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる				2(1) ア (ア)	○				○		40.7	44.1	-3.4
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる				1(1) ア(ウ) イ(イ)	○				○		51.5	54.6	-3.1
8 (2)	目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる				1(1) イ(イ)	○				○		35.9	38.4	-2.5
9 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2) ア (ア)				○				○		70.8	73.2	-2.4
9 (2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(2) イ (イ)				○				○		9.8	12.5	-2.7

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

- A 数と式
 - ・自然数を素数の積で表すことができる。
（【1】対全国比：+16.1）
 - ・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
（【2】対全国比：+3.9）
- B 図形
 - ・反例の意味を理解している。
（【3】対全国比：+2.5）
- C 関数
 - ・一次関数の変化の割合の意味を理解している。
（【4】対全国比：+1.3）

▼課題であること

- A 数と式
 - ・問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。
（【6（1）】対全国比：-1.1）
 - ・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。
（【6（3）】対全国比：-2.6）
- B 図形
 - ・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
（【9（1）】対全国比：-2.4）
 - ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。
（【9（2）】対全国比：-2.7）
- C 関数
 - ・与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。
（【8（1）】対全国比：-3.1）
 - ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
（【8（2）】対全国比：-2.5）
- D データの活用
 - ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解している。
（【5】対全国比：-2.0）
 - ・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。
（【7（1）】対全国比：-1.8）
 - ・箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。
（【7（2）】対全国比：-3.4）

学習指導に当たって

A 数と式

- ・自然数を素数の積で表すことができるようにする。
- ・素因数分解をすることを通して、整数の性質についての理解を深めることができるようにする。
- ・連立二元一次方程式を工夫して解くことができるようにする。
- ・連立二元一次方程式を用いて問題解決することを通して、数学を利用することのよさや意義を実感できるようにする。
- ・予想した事柄が成り立つことの説明を振り返り、文字を用いた式がどのような事柄を表しているかを確認できるようにする。
- ・事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明できるようにする。
- ・結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。

B 図形

- ・反例の意味を理解できるようにする。
- ・反例を見いだし用いることで命題が常に成り立つとは限らないことを説明できるようにする。
- ・証明の根拠として用いられる三角形の合同条件を指摘できるようにする。
- ・ある条件の下で成り立つ図形の性質を見いだし、それが成り立つ理由を数学的に説明できるようにする。
- ・観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、統合的・発展的に考察することができるようにする。

C 関数

- ・一次関数の変化の割合の意味を理解し、それを求めることができるようにする。
- ・具体的な事象について、伴って変わる二つの数量 x 、 y の変化や対応を捉え、それらの関係を数学的に表現することができるようにする。
- ・与えられた表やグラフから情報を読み取り、座標平面上の点を座標を用いて表すことができるようにする。

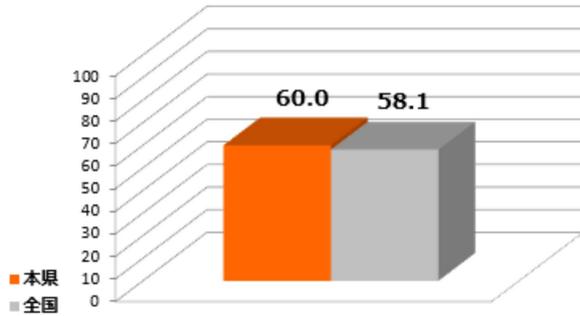
D データの活用

- ・多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解できるようにする。
- ・多数の観察や多数回の試行の結果を基にして、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができるようにする。
- ・データの分布の傾向を読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする。
- ・四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を理解できるようにする。

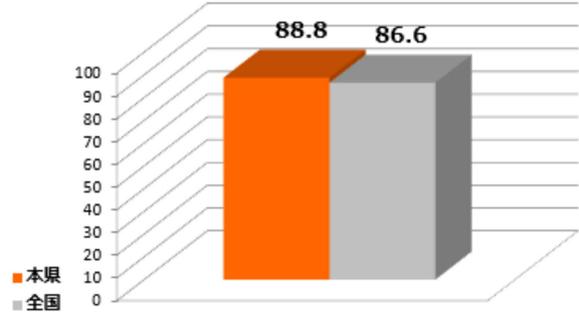
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県生徒の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】

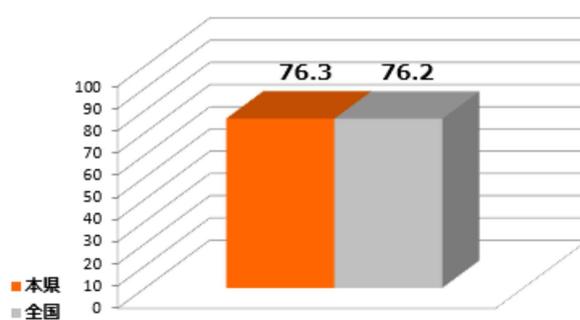
【(53) 数学の勉強が好きか】



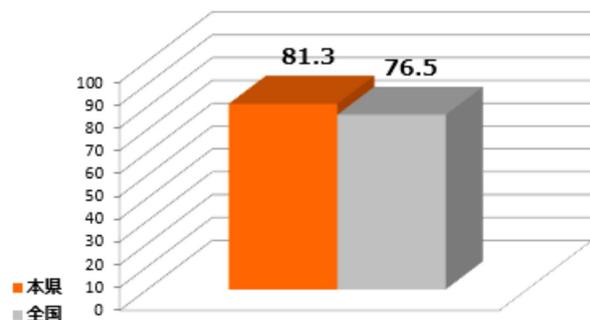
【(54) 数学の勉強は大切か】



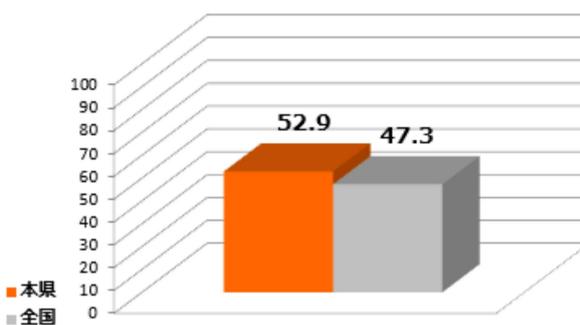
【(55) 数学の授業の内容はよく分かる】



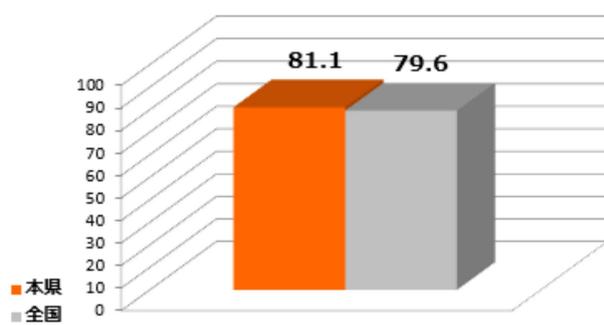
【(56) 数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思う】



【(57) 数学の授業で学習したことを、普段の生活で活用できないか考える】



【(60) 数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている】

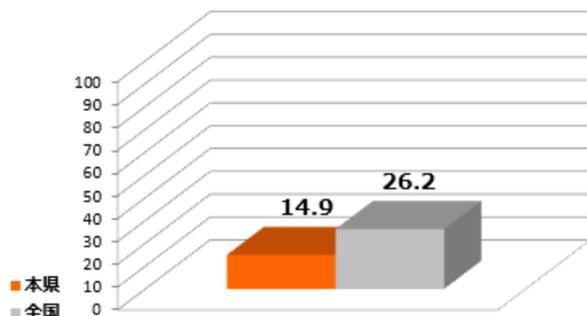


- 生徒の数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等は、全ての質問において全国平均を上回るか、同程度となっている。
- 8割以上の生徒が、数学の勉強は大切である、数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思う、数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていると考えている。
- 数学の勉強は大切か、数学の授業の内容はよく分かる、数学の授業で学習したことは、将来役に立つと思うの質問項目は、前回の割合よりも増えている。

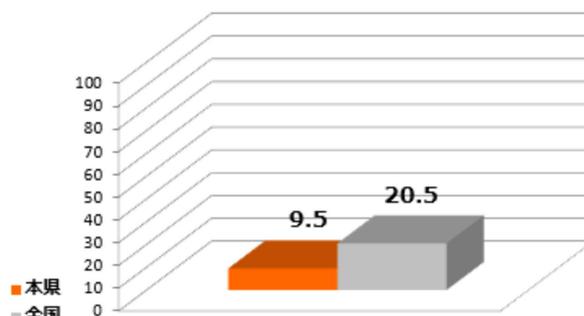
6 学校質問紙調査の結果から見える数学の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合(%)】

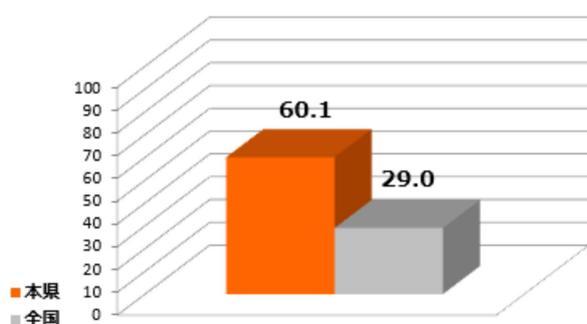
【(43) 少人数による指導を行ったか】



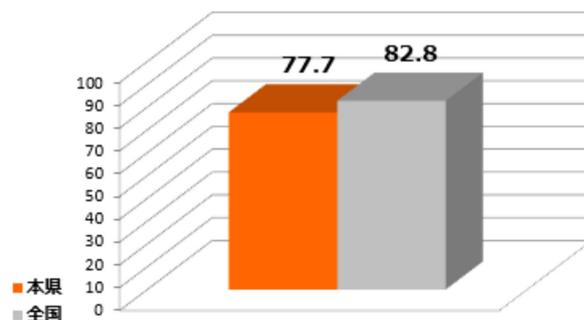
【(44) 習熟度に応じた指導を行ったか】



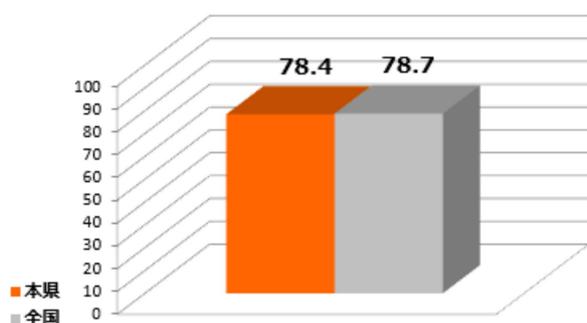
【(45) ティーム・ティーチングによる指導を行ったか】



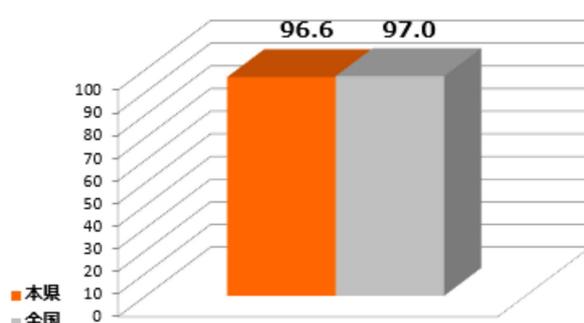
【(46) 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか】



【(47) 観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったか】



【(48) 公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していたか】



- 数学の指導として、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していたかの割合は、全国平均とほぼ同程度で、9割以上である。
- 数学の指導として、チーム・ティーチングによる指導を行っている割合が6割であり、全国平均を大きく上回っている。
- 数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業や、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行った割合が、全国平均とほぼ同程度である。
- ▼数学の指導として、少人数による指導、習熟度に応じた指導を行っている割合が、全国平均を下回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について(令和4年度全国学力・学習状況調査報告書より)

数と式

◆ 整数の性質についての理解を深める活動の重視

自然数を素数の積で表すことができるようにするために、整数に対する見方を広げ、整数の性質について理解を深める活動を重視していくことが大切である。その際、小学校で学んだ約数や倍数の性質を捉え直す場面を設定することが考えられる。

◆ 予想した事柄が成り立つかどうかを具体例をあげて調べる活動の充実

結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにするために、すでに成り立つことが示された事柄を基に、前提を変えても成り立つ場合を考え、話し合う活動を取り入れることが考えられる。その際、成り立つ事柄を予想するために、具体例をあげて調べる活動を充実することが大切である。

図形

◆ 事柄が常に成り立つとは限らないことを反例をあげて説明する活動の重視

ある事柄が成り立つかどうかを判断するために、仮定を満たすような具体例を幾つかあげ、それが結論を満たすかどうかを調べる活動を取り入れることが大切である。その際、事柄がいつでも成り立つとは限らない場合には反例をあげて説明する活動を重視することが大切である。

◆ 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する活動の充実

結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えたりするなど、事柄が成り立つ理由を数学的に説明する活動を充実することが大切である。

関数

◆ 伴って変わる二つの数量の変化の特徴を捉える活動の重視

変化の割合の意味を理解するために、伴って変わる二つの数量の変化の特徴を捉える活動を重視することが大切である。その際変化の割合は $(y \text{の増加量}) / (x \text{の増加量})$ で求められることだけでなく、 x の増加量が1のときの y の増加量であると捉えることができるようにすることが大切である。

◆ 事象の数学的な解釈に基づいて、問題解決の方法を数学的に説明する活動の充実

様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実することが大切である。その際、問題解決の過程を振り返る場面において、解決の見通しをもつ場面で出された方法の説明として不十分なものを取り上げて吟味し、より洗練された表現に高めていく工夫が考えられる。

データの活用

◆ ヒストグラムの特徴を比較して読み取り、判断の理由を数学的に説明する活動の重視

データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにするために、ヒストグラムの特徴を比較して読み取り、そのことを根拠として判断した理由を説明する活動を充実することが大切である。その際、データの分布の傾向について最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて表現できるようにすることが大切である。

◆ 複数の集団のデータの分析に着目し、その傾向を比較して読み取る活動の充実

箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるようにするために、複数の集団のデータの分布を比較する場面を設定し、そのデータを整理して箱ひげ図に表し、データの分布の傾向を比較して読み取る活動を充実することが大切である。その際、箱が示す区間の長さの長短によらず、最小値、第1四分位数、第2四分位数（中央値）、第3四分位数、最大値の五つの値の間の四つの区間に含まれるデータの個数はほぼ同じであることを確認することが重要である。

(2) 質問紙調査の結果を踏まえて

数と式

◆ 統合的・発展的に考察することができるように指導することが重要

数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。

例えば、「同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。」の前提を変えて、「異なる2つの偶数の和の場合も、4の倍数になるのではないか。」と予想したり、「差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。」の前提を変えて、「差が4の倍数である2つの偶数の和は、4の倍数になるのではないか。」と予想したりすることが大切である。こうして得られた予想に対して、具体例をあげて調べたり、既に正しいと認めた文字式を用いた説明を読んで考えたりする場面を設定することが考えられる。

図形

◆ 観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見いだすことや、統合的・発展的に考察することができるように指導することが重要

図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えても予想した事柄が成り立つか確かめたり、予想した事柄が成り立つための条件を見いだしたりするなど、統合的・発展的に考察することが大切である。

例えば、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見いだす場面としては、本問9のように、長方形ABCDの辺の長さを変えた図形においても、線分EBと線分BFの長さが等しいことを確認した後に、線分EBと線分BFのなす角に着目し、長方形ABCDの辺の長さを変えた図形を観察し、「 $\angle EBF$ の大きさが 60° になる。」といったように、成り立つと予想される事柄を見いだす場面を設定することが大切である。さらに、長方形の大きさや形を変えた図形を観察する際には、コンピュータを活用することも効果的である。1人1台端末を利用し、成り立つと予想される図形の性質を見だし、それを他の生徒と共有するなどの活動も考えられる。

また、統合的・発展的に考察する場面としては、本問9の図1において、長方形ABCDの辺の長さをいろいろに変えても、「 $EB = BF$ 」や「 $\angle EBF = 60^\circ$ 」が成り立つことを数学的に説明した後、四角形ABCDや $\triangle ADE$ 、 $\triangle DCF$ の形に着目し、条件を変えて考える場面を設定することが考えられる。その上で、長方形ABCDを平行四辺形などの他の四角形に変えても、長方形ABCDのときと同じ結論である「 $EB = BF$ 」や「 $\angle EBF = 60^\circ$ 」が得られるかどうかについて、統合的・発展的に考察することが大切である。

関数

◆ 日常生活や社会事象における問題の解決に数学を活用できるように指導することが重要

具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりして、日常生活や社会の事象における問題を数学の問題として捉え、数学を活用して解決できるように指導することが大切である。さらに、その解決の過程や結果を振り返り、新たな問題を見いだすなど、日

常生活や社会の事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を育成することが大切である。例えば、世界が目指す持続可能な開発目標（SDGs）における、17の目標の中の「気候変動に具体的な対策を」という目標について考えることを契機に、自分たちができる二酸化炭素削減の取り組みについて考える場面を設定することが考えられる。本問⑧のように、「このまま同じように取り組みを続け、二酸化炭素削減量の合計300kgを達成できるのは、およそ何日目になるか」について、関数を活用して考察することが大切である。なお、日常生活や社会の事象における問題については、教科等横断的な視点で、他の教科等における指導との関連付けを図りながら、学習場面を設定することも求められている。

データ活用

◆ 目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して、統計的に問題解決することができるように指導することが重要

日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することが大切である。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切である。

例えば、本問のように、コマ回し大会で使うコマを選ぶため、二つのコマのうち、より長い時間回りそうなコマを選ぶという場面において、二つのコマAとコマBが回った時間のデータを収集し、それらを整理して代表値を求めたり、ヒストグラムに表して分布の傾向を読み取ったりするなどして、二つのコマの特徴について話し合う場面を設定することが考えられる。さらに、コマを回す高さによって回る時間に違いがあることから、箱ひげ図を用いてコマBの低位置、中位置、高位置におけるそれぞれのデータの分布の傾向を比較して読み取り、各位置でのコマが回る時間の傾向について考察する活動を取り入れることも考えられる。その際、データの収集の仕方は適切か、データの傾向を読み取る上でどの代表値が根拠としてふさわしいか、分析した結果から得られる結論が妥当かなど、批判的に考察できるよう指導することが大切である。

<令和3年度県学習状況調査を踏まえて(数学)>

令和3年度学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は内容・領域別にみた状況では「数と式」と「データの活用」の領域に課題があると分析した。

「数と式」については、方程式の解が問題の答えとして適切であるかを考察する場面で、方程式の解について吟味することの必要性とその意味の理解が不十分であることに課題があり、方程式の解が問題の答えとして適切なものであるかについて、考察する場面を設定するとともに、問題解決の過程を振り返り、得られた結果を意味付けたり活用したりしようとする態度を養うことが大切であるとした。

「データの活用」については、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取る場面で、日常の事象を数学と結びつけて考えたり、判断したりする力の不足に課題があり、不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現する活動を通して、「必ず～になる」とは言い切れない事柄についても、数を用いて考察したり判断したりすることができることを知り、日常生活や社会と数学の実感させることが大切であるとした。

【令和3年度学習状況調査実施報告書より】

令和4年度全国学力・学習状況調査では、「数と式」については、ある事柄が成り立つ場合と成り立たない場面を比較する場面でその結論が成り立つための条件は何かを考え、説明する学習活動と関連させながら、一旦解決された問題の説明を振り返り、見いだした事柄の意味を考えたり、拡張させて考えたりすることができるよう指導することが大切である。

「データの活用」については、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性と意味を理解できるようにするために、多数回の試行における結果から得られた相対度数は、一定の値に近づいていくことを実感を伴って理解できるように指導するとともに、多数の観察や多数回の試行の結果を基に不確定な事象について考察する際には、相対度数を確率と見なして用いることができるように指導することが大切である。なお、試行回数と相対度数の関係を表やグラフにまとめる際には、コンピュータなどを利用してデータを整理することが考えられる。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和3年度学習状況調査実施報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

IV 理科

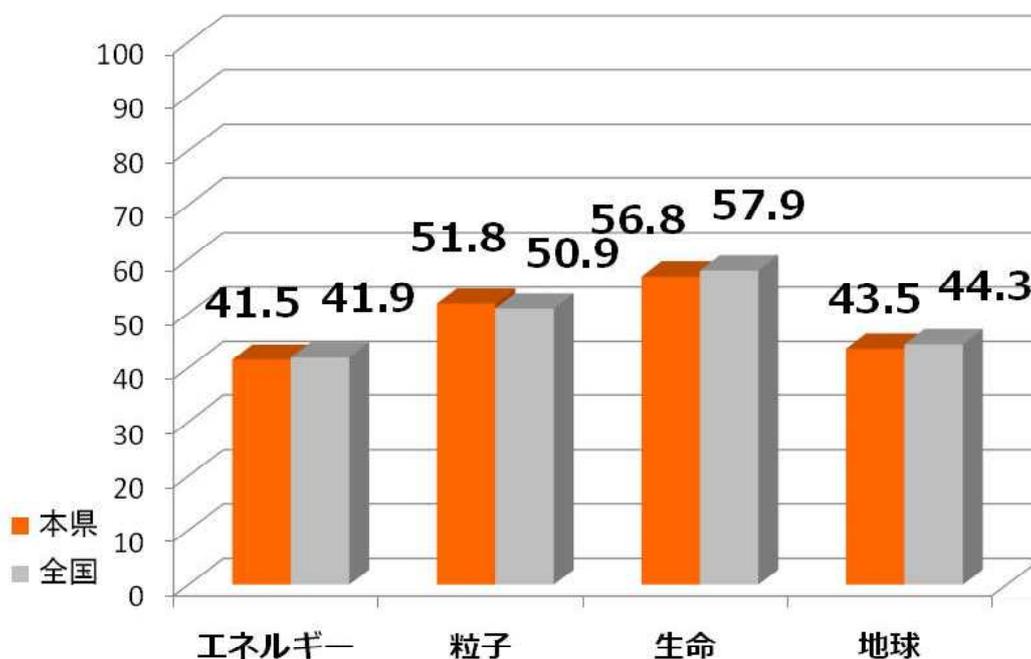
1 教科全体の結果

理科の平均正答率(%)		
青森県	全国平均との差	平成30年度全国平均との差
49	-0.3	+2

□ 本県の理科全体の平均正答率は、全国平均と同程度である。

2 領域別の正答率

分類	区分	平均正答率(%)		
		青森県	全国との差	平成30年度 全国との差
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	41.5	-0.4	+1.4
	「粒子」を柱とする領域	51.8	+0.9	+0.8
	「生命」を柱とする領域	56.8	-1.1	+4.4
	「地球」を柱とする領域	43.5	-0.8	-0.3
評価の観点	知識・技能	47.6	+1.5	
	思考・判断・表現	49.7	-1.3	
	主体的に学習に取り組む態度			



□ 「粒子」を柱とする領域の平均正答率が、全国平均をやや上回っている。
 □ 他の3領域については、全国平均をやや下回っているものの、全国と同程度である。

3 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域		評価の観点		問題形式		正答率(%)		無解答率(%)		
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「命」「生」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	科学探究	態度・規範	主体的に学習に取り組む態度	青森県(公立)	全国(公立)	青森県(私立)
1 (1)	日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (7)					○	○	43.4	44.2	0.1	0.1
1 (2)	タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために、変える条件と変えない条件を適切に設定した実験操作の組合せを選択する	モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる	(3) (7)					○	○	78.3	78.5	0.1	0.1
2 (1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる			(4) (7)			○	○	59.6	54.2	0.1	0.2
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる			(4) (4)			○	○	36.1	40.8	0.2	0.3
2 (3)	上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する	飛行機雲の残りを科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる			(4) (4)			○	○	24.2	28.5	0.2	0.3
3 (1)	分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる	(4) (4)					○	○	84.2	80.1	0.1	0.1
3 (2)	水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる			(4) (4)			○	○	61.7	60.2	0.3	0.3
3 (3)	水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもととして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (7)	(4) (4)				○	○	24.1	24.8	4.2	4.3
4 (1)	ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する	節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる			(1) (4)			○	○	73.6	74.5	5.3	5.5
4 (2)	脊椎動物には骨格のつくりに共通点があることから、カラスの関節Aに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する	複数の脊椎動物の外部形態の観察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる			(1) (4)			○	○	61.2	65.6	0.2	0.2
5 (1)	おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (4)					○	○	12.5	15.3	0.2	0.2
5 (2)	「ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するか」という課題に正対した考察を行うために、適切に処理されたグラフを選択する	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (4)					○	○	46.5	45.0	0.3	0.4
5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (4)					○	○	44.1	43.3	27.6	29.4
6 (1)	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し、その理由を選択する	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる			(2) (7)			○	○	51.5	48.0	0.3	0.3
6 (2)	陸上のB地点で中生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する	過去の大地の変動について、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を、水平方向の変動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる			(2) (4)			○	○	58.5	60.3	0.5	0.6
6 (3)	東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する	地層の広がりに関して、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる			(2) (4)			○	○	30.9	34.2	0.7	0.7
7 (1)	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する	液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(2) (7)					○	○	35.4	35.9	0.4	0.4
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる	(2) (7)					○	○	53.4	53.4	0.9	1.0
8 (1)	アリの行列による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に、課題に正対した考察を記述する	アリの行列のつくり方を探究する場面において、観察による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる	(3) (7)					○	○	53.4	55.2	10.3	11.6
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる	(3) (7)					○	○	53.4	55.1	14.1	14.9
8 (3)	生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	(1) (4)					○	○	42.6	39.2	1.1	1.4

4 問題別集計結果の状況

○良好であること

- 「エネルギー」を柱とする領域
 - ・課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる。
（【5（2）】対全国比：+1.5）
- 「粒子」を柱とする領域
 - ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる。
（【3（1）】対全国比：+4.1）
 - ・水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の性質から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。
（【3（2）】対全国比：+1.5）
- 「生命」を柱とする領域
 - ・未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる。
（【8（3）】対全国比：+3.4）
- 「地球」を柱とする領域
 - ・観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる。
（【2（1）】対全国比：+5.4）
 - ・玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。
（【6（1）】対全国比：+3.5）

▼課題であること

▼「エネルギー」を柱とする領域

- ・力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。

【5（1）】対全国比：－2.8）

▼「生命」を柱とする領域

- ・複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。

【4（2）】対全国比：－4.4）

▼「地球」を柱とする領域

- ・継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。

【2（2）】対全国比：－4.7）

- ・飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる。

【2（3）】対全国比：－4.3）

- ・地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる。

【6（3）】対全国比：－3.3）

学習指導に当たって

「エネルギー」を柱とする領域

- 日常生活における現象を静電気に関する知識と関連付けて説明できるようにする
 - ・日常生活の動作の中で発生する静電気の性質により引き起こされる現象や、静電気を利用したものを静電気の性質と関連付けて説明する学習場面を設定する。
- 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるようにする
 - ・現象の観察を通して抽出した要因を整理し、変える条件と変えない条件を検討して実験を計画する学習場面を設定する。
- 物体に働く重力とつり合う力を矢印で表して説明できるようにする
 - ・物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表して、つり合いの関係を説明する学習場面を設定する。
- 課題に正対した考察を行うために適切なグラフを作成できるようにする
 - ・課題に立ち返りながら考察を行うために、どのようなグラフを作成すればよいかを検討する学習場面を設定する。
- 考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善できるようにする
 - ・測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、測定する間隔や範囲などの改善点を明確にし、それらを基に実験の計画を検討して改善する学習場面を設定する。

「粒子」を柱とする領域

- 原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表すことができるようにする
 - ・身近に見られる化学変化を原子や分子のモデルで微視的に現象を捉えることで、化学変化に関係する原子や分子の種類や数に関することを可視化して理解させる。
- 化学変化を粒子の保存性に着目し、分析して解釈できるようにする
 - ・水の電気分解などの化学変化を原子や分子のモデルで表す学習場面を設定し、化学変化に関係する原子の種類や数が変化しないことに気付くようにさせる。

- 化学変化を「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈できるようにする
 - ・ 水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付くようにする。
- 状態変化に関する知識を身近な現象で活用できる程度に概念等を理解できるようにする
 - ・ 状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探究する学習場面を繰り返し設定する。
- 実験結果が考察の根拠として十分か検討し、実験の計画を改善できるようにする
 - ・ 話し合い活動を通して、実験の計画を再検討して改善する学習場面を設定する。

「生命」を柱とする領域

- 動物の外部形態を生活場所と移動の仕方などと関連付けて、分析して解釈できるようにする
 - ・ いろいろな動物の外部形態を観察して見いだした特徴を、共通点と相違点に着目して生活場所や移動の仕方などと関連付けて考察し、表現する学習場面を設定する。
- 主として共通性と多様性の視点で捉え、動物の体のつくりを分析して解釈できるようにする
 - ・ いろいろな動物を脊椎動物と無脊椎動物に分類でき、さらに脊椎動物については、五つの仲間に分類できることを見いだして理解できるようにする。例えば、骨格のつくり共通点と相違点が見られることについて気付くようにする学習場面を設定することが考えられる。
- 実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるようにする
 - ・ アリの行列のつくり方に問題を見いだして設定した課題と考察が正対しているか、考察の根拠は明確かなどの検討を促す学習場面を設定する。
- 観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法を検討し、探究の過程の見通しをもつことができるようにする
 - ・ 実験の計画を立案する場面で予想や仮説と異なる結果が出る場合を想定し、探究の方法について検討する学習場面を設定する。
- 動物の外部形態を比較して、共通点や相違点に基づいて動物を分類できるようにする
 - ・ いろいろな動物の外部形態を観察し、主として共通点と相違点の視点で捉え、観点や基準を見いだして分類する学習場面を設定する。

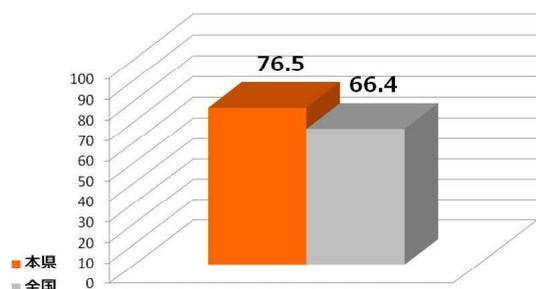
「地球」を柱とする領域

- 気圧の概念を空気の柱と関連付けて捉えることができるようにする
 - ・ 百葉箱で観測した気圧と天気図から読み取った気圧が異なる理由について、空気の柱をモデルとして用いて説明する学習場面を設定する。
- 複数の観測データを天気図と関連付け、天気の変化を分析して解釈できるようにする
 - ・ 校庭にある百葉箱の観測データとタブレット型端末で空の様子を撮影した画像を、天気図と関連付けて考察する学習場面を設定する。
- 考察の根拠が妥当か、多面的、総合的に検討して改善できるようにする
 - ・ 他者の考察の根拠としている観測データの種類や科学的に探究する方法が妥当か検討する学習場面を設定する。
- 岩石に関する知識及び技能を活用し、化石が含まれる可能性の有無を判断できるようにする
 - ・ 地域にどのような岩石が分布しているかを調べ、身に付けた岩石に関する知識及び技能を活用して、化石が含まれる可能性の有無を判断する学習場面を設定する。
- 観察結果から、過去の大地の変動についての推論を検討して改善できるようにする
 - ・ 観察結果と身に付けた知識を関連付けながら推論の妥当性を検討する。
- 地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈できるようにする
 - ・ 地層モデルや露頭の360度パノラマ画像を活用して地層を立体的に捉え、生徒が試行錯誤しながら広がり方や傾きを考える学習場面を設定する。

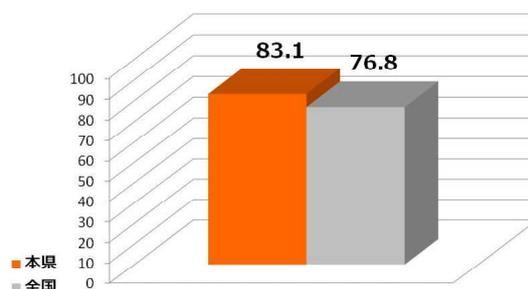
5 生徒質問紙調査の結果から見える本県の状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した生徒の割合(%)】

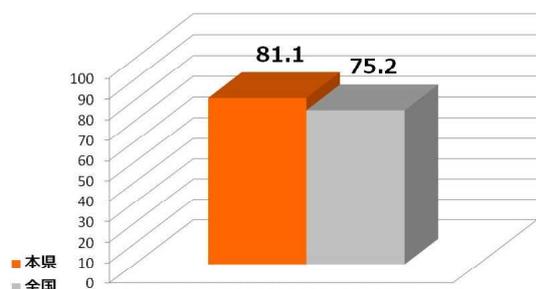
【(61)理科の勉強は好きか】



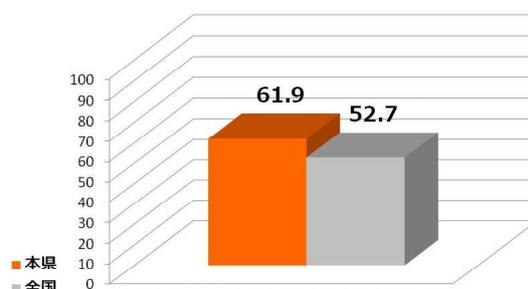
【(62)理科の勉強は大切だと思うか】



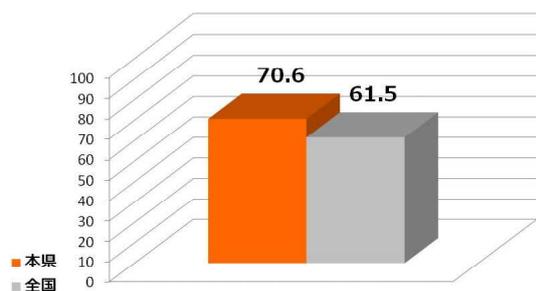
【(63)理科の授業の内容はよく分かるか】



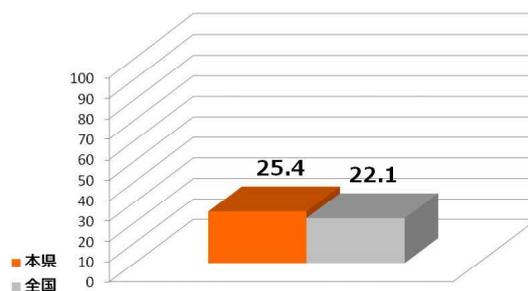
【(64)理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか】



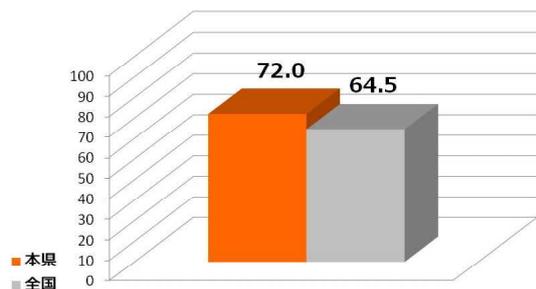
【(65)理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか】



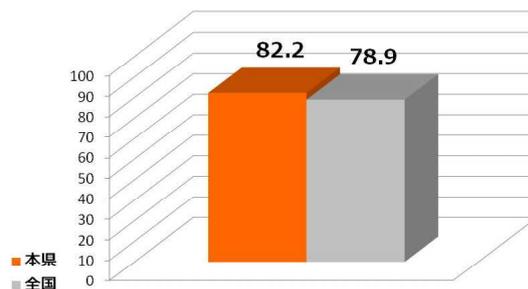
【(66)将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思うか】



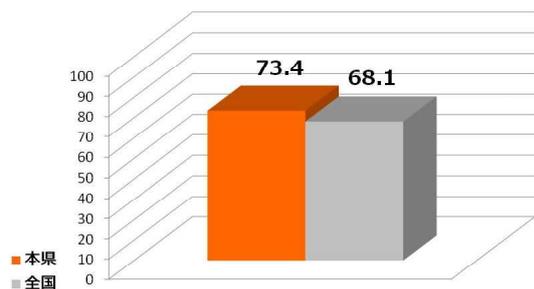
【(67)理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか】



【(68)理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察しているか】



【(69)理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか】

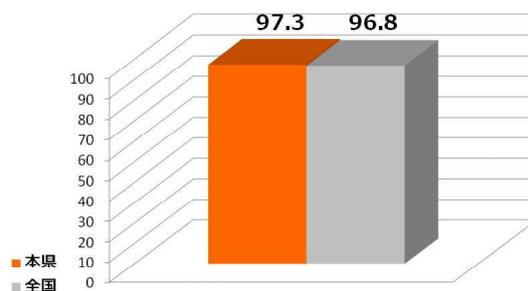
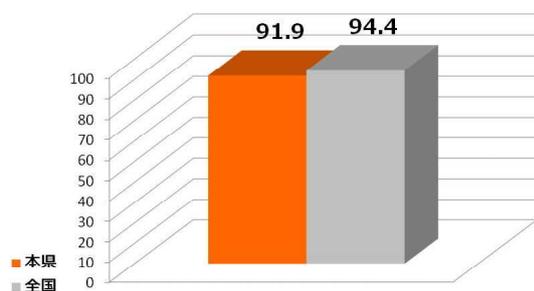


□生徒の理科に対する興味・関心や授業の理解度等は良好な状況にあり、特に、観察や実験の結果をもとに考察している生徒の割合が8割を上回っている。
□理科の勉強を大切に思うか、また、内容がよく分かるかの項目の割合も8割を上回っている。

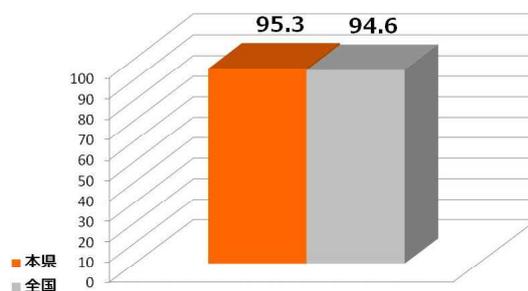
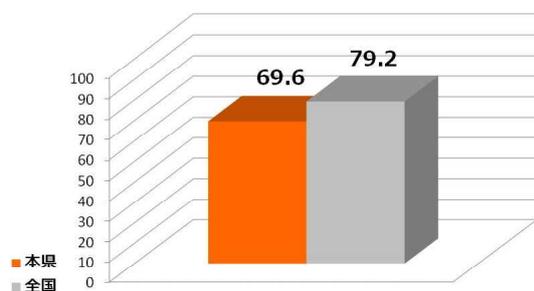
6 学校質問紙調査の結果から見える理科の指導状況

【当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答した学校の割合(%)】

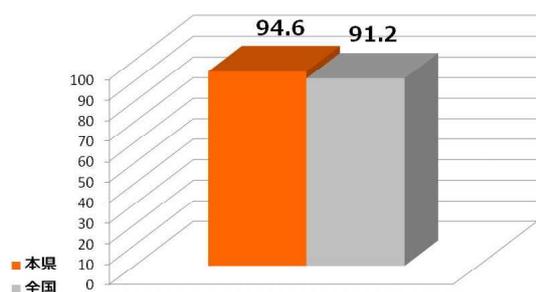
【(49)自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を 【(50)実生活における事象との関連を図った授業を行ったか】行ったか】



【(51)自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることが 【(52)観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったか】できるような指導を行ったか】



【(53) 生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり月1回以上程度行ったか】



- 理科の指導に関する調査結果では、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行った割合は全国平均を下回っているが、9割以上である。
- 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った割合は全国平均を下回っている。
- 実生活における事象との関連を図った授業を行った割合及び、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行った割合は、9割以上である。
- 観察や実験をする授業を1クラス当たり月1回以上行った割合は、全国平均を上回っている。

7 指導改善のポイント

(1) 各領域について《令和4年度 全国学力・学習状況調査 報告書より》

「エネルギー」を柱とする領域

- 物体に働く重力とつり合う力を矢印で表す学習活動の充実
 - ・ 物体に力を働かせる実験を行い、一つの物体に二つの力が働いていることに気付くようにし、それらの力の大きさや向きを矢印で表す学習場面を設定することは大切である。教室内の風景をタブレット型端末で撮影し、画像の中からつり合っている力を見だし、物体に働く力を矢印で表すなどの学習活動を充実することが考えられる。
- 考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善する学習活動の充実
 - ・ 身近な物理現象を科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善することは大切である。実験の測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、結果を表したグラフから、改善点を明確にし、実験の計画を検討して改善する学習活動を充実することが考えられる。

「粒子」を柱とする領域

- 原子や分子のモデルを基に、化学変化を化学反応式で表す学習活動の充実
 - ・ 化学変化に関する知識及び技能を活用して、化学変化を粒子の保存性に着目し分析して解釈することは大切である。その際、ICT機器などを活用して、原子や分子のモデルを用いて可視化することで、原子や分子のモデルを基に化学変化を化学反応式で表す活動を繰り返し行うことが考えられる。
- 「粒子」を柱とする領域に関する知識及び技能を身近な現象で活用する学習活動の充実
 - ・ 「粒子」に関する知識及び技能について、身近な現象で活用できる程度に概念等を理解することは大切である。状態変化など「粒子」に関する知識及び技能と身近な現象を関連付けて探究する学習場面を繰り返し設定することで、日常生活や社会の場面で理科の知識及び技能を活用して、現象を説明する力を育成することができると考えられる。

「生命」を柱とする領域

- 動物の外部形態を生活場所などと関連付けて、分析して解釈する学習活動の充実
 - ・ 身近な動物の外部形態の観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解することが大切である。その際、動物の外部形態を生活場所や移動の仕方などと関連付けて分析して解釈する学習活動を充実することが考えられる。
- 課題を解決するために適切な探究の方法を検討し、探究の過程の見通しをもつ学習活動の充実
 - ・ 「生命」に関する知識及び技能を活用し科学的に探究する上で、課題を解決するまでの探究の過程を見通すことは大切である。例えば、唾液がデンプンを分解する実験の計画を立案する際に予想や仮設と異なる結果が出る場合を想定し、課題を解決するために適切な探究の方法について話し合い等を行い、見通しをもつ学習場面を設定することが考えられる。

「地球」を柱とする領域

- 複数の観測データを天気図と関連付け、天気の変化を分析して解釈する学習活動の充実
 - ・ 天気の変化を科学的に探究する上で、気圧に関する知識を活用し、観測データから読み取った情報を天気図と関連付けることが大切である。その際、校庭にある百葉箱の観測データやタブレット型端末で空の様子を撮影した画像と、天気図を関連付けて分析して解釈する学習場面を設定することが考えられる。
- 地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、分析して解釈する学習活動の充実
 - ・ 地層の広がり方を理解する上で、露頭のスケッチの位置関係をルートマップから捉えて空間として認識するなどして、分析して解釈することが大切である。例えば、地層モデルや露頭の360度パノラマ画像を活用して地層を立体的に捉え、生徒が試行錯誤しながら広がりや傾きを考える学習場面を設定することが考えられる。

〈令和3年度県学習状況調査を踏まえて(理科)〉

令和3年度県学習状況調査実施報告書において、本県の中学生は「粒子」と「地球」の領域で課題があると分析した。

「粒子」領域からは、再結晶で析出する溶質の質量を求めることをねらいとした問題を出題したところ、実験結果と溶解度を関連付け、分析して解釈することに課題があり、水溶液の温度を下げることにより、結晶を取り出すことができることを溶解度と関連付けて思考させることが大切であるとした。その際、物質が水に溶ける量には限度があること、物質が水に溶ける量は水の温度や量、溶かす物質によって違うこと、この性質を利用して溶けている物質を取り出すことを視覚化し、理解させることが大切である。

「地球」領域からは、マグニチュード、震度、震源からの距離の3つの関係について説明できるかを判断する問題を出題したところ、地震の伝わり方のメカニズムを空間的な視点で捉える力が不足していることに課題があり、自然事象を再現・実証することが困難な地学分野の内容を、ICTの活用により視覚的に捉えさせることが大切であるとした。また、それを基に、地震の伝わり方のメカニズムについて多様な考えを引き出し、生徒の思考を深めさせる学習活動を設定することも必要である。

【令和3年度学習状況調査実施報告書より】

令和4年度全国学力・学習状況調査では、「粒子」を柱とする領域の県の平均正答率は、51.8%と全国平均を0.9ポイント上回っているが、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する問題の正答率は24.1%と低かった。身近な現象を科学的に探究する上で、化学変化と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈するために、水の電気分解や水素の燃焼などの化学変化には、電気、熱、光など「エネルギー」を柱とする領域が関連していることに気付くように指導することが大切である。その際、化学変化を起こすきっかけとなるエネルギーの形態だけでなく、それらが生み出される過程について触れることも重要である。

「地球」を柱とする領域の県の平均正答率は、43.5%と全国平均を0.8ポイント下回っており、その中でも気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する問題では、全国平均を4.7ポイント下回っている。複数の観測データを天気図と関連付け、天気の変化を分析して解釈できるようにするために、校庭にある百葉箱の観測データとタブレット型端末で空の様子を撮影した画像を、天気図と関連付けて考察する学習場面を設定するように指導することが大切である。その際、複数の観測データから読み取った情報を総合し、分析して解釈できるようにすることも重要である。

※授業改善の具体例

以下の資料を併せて参照してください。

- ・令和3年度学習状況調査実施報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書
- ・令和4年度全国学力・学習状況調査報告書の結果を踏まえた授業アイデア例

V 質問紙調査

質問紙調査の結果については、以下の視点で分析を行った。

- ・良好な状態を把握するために、
 - 全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かったか。
 - 望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）か。
- ・課題となっている状況を把握するために、
 - ▼全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かったか。
 - ▼望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）か。

I 生徒質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した生徒は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 基本的な生活習慣等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
5 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をするか（★）※（短い時間の方が正答率が高い） 【3時間以上の割合の合計】	26.6	-3.9	-0.1 ③
6 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをするか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） 【3時間以上の割合の合計】	25.6	-3.9	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

▼ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしている生徒は、全体の3割程度である。

▼ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たり3時間以上、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしている（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）生徒は、全体の3割程度である。

②今後の対策・指導

◆ 朝食の摂取、規則正しい起床、就寝等、概ね良好な状況であるため、引き続き、学級懇談等の場において、ゲームや携帯電話・スマートフォンの使用時間についての課題を話し合ったり、家庭でのルールづくりを促したりするなど、保護者と連携していくことが必要である。

(2) 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
8 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	91.1	+4.5	+5.7
9 将来の夢や目標を持っているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	75.7	+8.4	-0.2
11 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	73.0	+5.9	+3.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 先生が生徒のよいところを認めてくれていると考えている生徒の割合は、前年度に比べ、増加している。
- 将来の夢や目標を持っていると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
13 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	97.1	+0.7	-0.1
15 人の役に立つ人間になりたいか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.9	+0.9	-0.4
18 友達と協力するのは楽しいと思うか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	95.1	+1.4	+0.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと考えている生徒の割合は、極めて高い。
- 人の役に立ちたいと考えている生徒の割合は、極めて高い。
- 友達と協力するのは楽しいと考えている生徒の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 本県の生徒は、自己肯定感が概ね高く、将来の夢や目標をもっている傾向にある。また、先生が生徒のよいところを認めてくれるからこそ、失敗を恐れず挑戦する気持ちがあると考えている。さらに、いじめはいけない行為だと認識していること、友達と協力するのが楽しいと感じること、人の役に立つ人間になりたいと考えていることなど、人と関わることを大切に捉えていることが伺える。今後とも、あらゆる教育活動において、生徒指導の三機能を生かした指導の充実を図るとともに、道徳教育や体験活動等を通じて、豊かな人間性を育む教育を重視することが大切である。

(3) 学習習慣・学習環境等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
19 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしているか [自分で調べる割合]	81.6	+7.2	新規
26 読書は好きか [「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計]	73.8	+5.6	+1.3 ①

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、自分で調べる生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- 読書が好きな生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
21 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強するか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） [2時間以上の割合]	21.9	-13.3	-5.7
22 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（★） [2時間以上の割合]	47.5	+2.6	-6.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日当たり2時間以上、勉強する（学習塾で勉強している時間や家庭教師に先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）割合は全国平均と比べ大きく下回り、前年度と比べても下回っている。

※3時間以上(4.1) 2～3時間(17.8) 1～2時間(42.7)
30分～1時間(22.7) 30分未満(9.2) 全くしない(3.6)

- ▼ 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間に以上勉強する（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）割合は前年度と比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
23 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、読書するか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） [1時間以上の割合]	13.9	+1.5	-1.3
25 新聞を読んでいるか [週1回以上の割合]	10.7	+1.3	-1.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- ▼ 学校の授業時間以外に、普段（月から金曜日）、1日当たり1時間以上読書する（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）割合は2割に満たない。
- ▼ 週1回以上新聞を読んでいる割合は、1割程度である。

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習の時間を確保するために、学級活動等の時間において、生徒に1日の生活の効果的な過ごし方を話し合わせる活動を定期的に行ったり、月単位、学期単位等の長い期間での学習計画を立てる活動を行ったり、生徒同士が家庭学習の時間確保や家庭学習の方法を話し合ったりするなどの活動を取り入れ、生徒自身が見通しをもって、家庭学習に取り組めるよう指導する。前年度との比較で数値が低い要因の1つとして、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策による休校や分散登校、部活動停止等の措置が一昨年度より少なくなったことが影響していると考えられる。
- ◆ 家庭での学習習慣の確立には、家庭との連携が不可欠であることから、学級懇談会や学級（学年）通信等を通じて、学級活動等で生徒自身が考えた学習計画を共有したり、県教育委員会作成のリーフレット等を活用して、家庭での学習習慣の確立に向けて協力を呼びかけたりしていくことが必要である。
- ◆ 読書については、日常生活において読書に親しむ習慣を身に付けるよう指導したり、学校図書館を計画的に利用するよう促したりする必要がある。また、新聞などを利用して得た情報を比較したり、論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読んだりすることが大切である。

(4) 地域や社会に関わる活動の状況等

①概況及び課題

【全国平均及び前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
27 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	61.8	+6.8	新規
30 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか 【当てはまる】「どちらかといえば、当てはまる」の合計	48.6	+7.9	-1.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがある生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
28 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあるか（習い事の先生は除く） 【よくある」「時々ある」の合計	24.8	+3.7	新規
29 今住んでいる地域の行事に参加しているか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計	40.8	+0.8	-3.5 ③
30 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計	48.6	+7.9	-1.7 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある生徒の割合は、3割に満たない。
- ▼ 今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合は、4割程度である。
- ▼ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている生徒の割合は、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 地域に対する興味・関心をもつことは生徒の視野を広げ、自己の将来を具体的に描くことや学習に対する意欲付けにつながる効果も期待できることから、生徒が地域の行事等に自ら参加するよう促したり、参加できる環境を学校が積極的に整えたりすることが大切である。
- ◆ 教科等の授業の際、地域や社会とのつながりをもたせた学習指導を行うことで、学習した内容を実生活で生かせる実感をもたせるとともに、学習内容に関連する記事を取り上げたり、短学活で新聞記事等を紹介し、その出来事について、生徒自身の考えをもたせたりする活動等を継続的に取り入れていく必要がある。
- ◆ 総合的な学習の時間において、地域の方に関わる場を設定したり、地域の課題解決を検討したりするような学習活動を取り入れ、地域の一員としての自覚や参画する意識を育てるよう指導することが大切である。

(5) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
34 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、使っているか [週1回以上の割合]	43.3	-0.2	新規
35 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、使っているか [週1回以上の割合]	36.0	+0.7	新規
37 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っているか [1時間以上の割合]	18.6	+0.9	+1.1 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使っている割合は、5割に満たない。
- ▼ 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用している割合は、4割に満たない。
- ▼ 普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために、1日当たり1時間以上使っている生徒の割合は、2割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 授業内でICT機器を用いて、意見交換及び自分の考えをまとめ、発表するなど、思考力・判断力・表現力等の育成に向けた指導の更なる充実に取り組む必要がある。
- ◆ ICT機器を活用し、家庭学習での普及啓発に取り組む必要がある。

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
41 1、2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていたか [「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計]	74.6	+7.4	新規

- 1、2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っている生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は過年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、自分の思いや考えをもとに創作活動を行うことで、生徒の学習意欲を引き出しながら、自分の考えを深めたり、まとめたりする学習活動を展開する必要がある。

(7) 総合・学級活動・道徳

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
46 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	83.1	+6.3	+3.4
47 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか 【当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の合計】	79.2	+7.5	+1.7

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 決
- 学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。
 - 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると考えている生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 学級活動の授業においては、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさを生かしながら、集団や自己の生活上の課題を解決する授業を行う必要がある。

2 学校質問紙調査の結果と今後の対策

※★印の項目に肯定的に回答した生徒は、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(1) 生徒指導等

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
8 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.3	-1.2	-1.3 ③
10 学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行ったか 【よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	97.3	-0.8	-0.7 ③
11 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっているか 【そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	95.9	+1.0	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした学校の割合は極めて高い。
- 生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った学校の割合は極めて高い。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっている学校の割合は極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 生徒一人一人のよい点を見つける取組や生徒が相談したいときに相談できる体制が行き届いている。今後も引き続き、生徒指導の三機能を生かし、指導の充実を図っていくことが望まれる。

(2) 学校運営に関する状況 教職員の資質向上に関する状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
21 教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加しているか（オンラインでの参加を含む） 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	83.8	+10.8	新規
22 校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っているか （管理職は除く） 【校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けており、当該教員が担っている】	97.3	+9.3	新規

- 教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している学校の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- 校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を設け、当該教員が担っている学校の割合は、全国平均を上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
17 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか 【よくしている】「どちらかといえば、している」の合計	96.6	+3.3	0.0 ③
22 校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っているか （管理職は除く） 【校内研修に関する業務を行う校務分掌は設けており、当該教員が担っている】	97.3	+9.3	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している学校の割合は、極めて高い。
- 校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を設け、当該教員が担っている学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
12 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【月に数回程度以上の割合】	36.5	-19.2	+3.8 ③
13 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行ったか 【月に数回程度以上の割合】	52.7	-16.4	+3.3 ③
15-2 ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど）は軽減したか 【「十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計】	41.9	-20.1	新規
15-4 ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員等会議に関する事務は軽減したか 【「十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計】	56.1	-11.6	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、月に数回程度以上そのことについて話し合うことを行った学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを月に数回程度以上行った学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど）は軽減したと感じた学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員等会議に関する事務が軽減した学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
12 教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行ったか 【月に数回程度以上の割合】	36.5	-19.2	+3.8 ③
15-2 ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど）は軽減したか 【「十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計】	41.9	-20.1	新規
15-3 ICTを活用した校務の効率化を通じて、学校からのお知らせ（学校通信等）は軽減したか 【「十分軽減した」「どちらかといえば、軽減した」の合計】	49.3	-3.5	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 教員が授業で問題を抱えている場合、月に数回程度以上そのことについて話し合うことを行った割合は、4割に満たない。
- ▼ ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務（個人面談等

の日程調整や学校評価アンケートなど)は軽減したと感じた学校の割合は、4割程度である。

- ▼ ICTを活用した校務の効率化を通じて、学校からのお知らせ(学校通信等)が軽減した学校の割合は、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 授業や学級で問題を抱えている教員に対して、話し合うことを月に数回以上行っている割合が全国と比べ低いことから、校長のリーダーシップのもと、教員の不安を緩和するための校内体制の構築やメンタルヘルスに関する手立てが求められる。
- ◆ ICTを活用した校務の効率化について、多くの業務において、全国と比べて軽減が図られていないと感じている学校が多いことから、ICTに関する先進事例を参考にしつつ、校内での研修体制の更なる充実が求められる。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
23 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか (★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	86.5	-1.4	+6.5 ③
24 授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか (★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	79.7	-1.0	+11.0 ③
26 生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	90.5	+4.3	+9.2 ③
28 授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.0	+0.9	+6.5 ②⑨
29 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	84.4	-2.6	+7.1 ③
31 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	71.6	-5.0	+11.0 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 授業において、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、増加している。
- 授業において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、大幅に増加している。
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている学校の割合は、全国平均及び前年度に比べ、増加している。
- 授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしている学校の割合は、前年度に比べ、増加している。
- 授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、

まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、増加している。

- 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、大幅に増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
27 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができているか 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	96.6	+0.6	+2.0 ③
28 授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	98.0	+0.9	+6.5 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 学級やグループでの話し合いの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている学校の割合は、極めて高い。
- 授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行った学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
25 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているか(★) 【「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計】	83.1	-4.2	-6.9 ③
31 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	71.6	-5.0	+11.0 ③
32 教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	68.9	-11.5	-5.9 ⑳

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている学校の割合は、全国平均及び前年度に比べ、下回っている。
- ▼ 各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた学校の割合は、前年度よりも大きく上回っているものの、全国平均に比べると下回っている。
- ▼ 教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った学校の割合は、全国平均に比べ、大きく下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を身に付けるために、言語活動の充実を図っていく必要がある。
- ◆ 学びの質を高めるための授業改善の取組の充実を図っていく必要がある。

(4) 総合・学級活動・道徳

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
36 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしているか 【「よくしている」「どちらかといえば、している」の合計】	96.7	-1.0	-2.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 総合的な学習の時間や各教科の授業で、生徒の課題意識を生かした単元計画を構想したり、生徒が調べ、分析し、発表・表現するような探究的な学習活動を取り入れるなど、生徒が課題意識をもって主体的に学習活動に取り組めるよう工夫が必要である。

(5) 学習評価

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 授業の中で目標を生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた学習活動が極めて良好な状況である。今後は、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うと同時に、評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価することを示すことが大切である。

(6) 国語科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
40 目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	89.9	-3.5	+5.9
42 目的に応じて、文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.6	+0.8	+5.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、上回っている。
- 目的に応じて、文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行った学校の割合は、前年度に比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
39 言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.6	-0.9	+0.6
41 目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	96.7	+0.6	+3.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行った学校の割合は、極めて高い。
- 目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行った学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(7) 個に応じた指導

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
45 数学の授業におけるチーム・ティーチングによる指導を行ったか 【年間の授業のうち2分の1以上で実施した割合】	60.1	31.1	新規

- 数学の授業におけるチーム・ティーチングによる指導を行った学校の割合は、全国平均と比べ、大幅に上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
43 数学の授業における少人数による指導を行ったか 【年間の授業のうち2分の1以上で実施した割合】	14.9	-11.3	新規
44 数学の授業における習熟度に応じた指導を行ったか 【年間の授業のうち2分の1以上で実施した割合】	9.5	-11.0	新規

▼ 数学の授業における少人数による指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、大幅に下回り、2割に満たない。

▼ 数学の授業における習熟度に応じた指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、大幅に下回り、1割に満たない。

(8) 算数・数学科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
46 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	77.7	-5.1	+9.0
47 観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	78.4	-0.3	+7.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、上回っている。

□ 観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行った学校の割合は、前年度に比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
48 公式や決まりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫したか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	96.6	-0.4	+2.6

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 公式や決まりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫した学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
46 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	77.7	-5.1	+9.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度に比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(9) 理科の指導方法

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
50 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.3	+0.5	+7.0 ③⑩
51 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	69.6	-9.6	+5.1 ③⑩

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、過年度に比べ、上回っている。
- 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、過年度に比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
50 実生活における事象との関連を図った授業を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	97.3	+0.5	+7.0 ③⑩
52 観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	95.3	+0.7	+3.7 ③⑩

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、極めて高い。
- 観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行った学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
51 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	69.6	-9.6	+5.1 ③⑩

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

(10) ICTを活用した学習状況

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
55 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか 【「ある」「どちらかといえばある」の合計】	87.2	-3.6	+15.9
56 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか【「ある」「どちらかといえばある」の合計】	51.3	-18.0	+17.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けている学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度より大幅に上回っている。
- コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制が構築されている学校の割合は、全国平均に比べ、大幅に下回っているが、前年度より大幅に上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
58 生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	39.2	-17.0	新規
59 生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	30.4	-11.3	新規
60 教職員と生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	29.7	-14.4	新規
61 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用させているか 【週3回以上の割合】	13.5	-14.3	新規
64 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で利用できるようにしているか 【「時々、持ち帰り」「時々持ち帰り～毎日持ち帰り」「毎日利用」の割合】	37.2	-24.6	新規
65-1 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習に活用しているか 【週1回以上の割合】	15.5	-9.8	新規
65-2 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認に活	13.5	-8.7	新規

用しているか [週1回以上の割合]			
65-3 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒の特性・学習進度等に応じた指導に活用しているか [週1回以上の割合]	21.6	-13.7	新規
65-4 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校生徒に対する学習活動等の支援に活用しているか [週1回以上の割合]	28.4	-13.5	新規
65-5 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援に活用しているか [週1回以上の割合]	32.4	-14.1	新規

- ▼ 生徒が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、4割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、3割程度であり、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 教職員と生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用させた学校の割合は、2割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、家庭で毎日利用～時々持ち帰りできるようにしている学校の割合は、4割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習に週1回以上活用している学校の割合は、2割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認に週1回以上活用している学校の割合は、2割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒の特性・学習進度等に応じた指導に週1回以上活用している学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校生徒に対する学習活動等の支援に週1回以上活用している学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援に週1回以上活用している学校の割合は、4割に満たなく、全国平均に比べ、大幅に下回っている。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
54 教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たり行ったか 【週3回以上の割合】	78.4	-9.3	新規
56 コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制があるか 【「ある」「どちらかといえばある」の合計】	51.3	-18.0	+17.3 ③
57 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で活用したか 【週3回以上の割合】	66.2	-15.0	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たり週3回以上行った学校の割合は、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がある学校の割合は、全国平均に比べ、大幅に下回っている。
- ▼ 一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3回以上活用した学校の割合は、全国平均に比べ、大幅に下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
62 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組を実施したか 【月1回以上の割合】	0.7	-2.9	新規
63 教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器を活用しているか 【「よく活用している」「どちらかといえば、活用している」の合計】	45.3	-4.1	新規

- ▼ 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設（他の学校や社会教育施設、民間企業等）にいる人々とやりとりする取組を月1回以上実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器を活用している学校の割合は、5割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ ICT機器の活用に関してのサポート体制や学校及び家庭におけるICT機器の活用、不登校や特別な支援を有する生徒へのICT機器を活用した支援などでは、全国平均を下回っている。各教科等においては、ICTの積極的な導入を図り、家庭での使用や生徒の状態や特性に応じた柔軟な活用を検討することが必要である。

(11) 特別支援教育

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均及び前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
66 特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	86.5	-6.3	-0.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 特別支援教育について理解し、授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫（板書や説明の仕方、教材の工夫等）を行った学校の割合は、全国平均及び前年度に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

◆ 個々の生徒の特性等に応じた指導方法の工夫を組織的に行い、研鑽を深める必要がある。

(12) 小中連携

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
68 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行ったか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	60.2	+2.2	-6.5
69 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか 【よく行った】「どちらかといえば、行った」の合計	33.8	-13.8	-6.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った学校の割合は、前年度より下回っている。

▼ 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、前年度より下回っており、全国平均に比べ、大幅に下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
69 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したか【「よく行った」「どちらかといえば、行った」の合計】	33.8	-13.8	-6.2

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有した学校の割合は、4割に満たない。

②今後の対策・指導

◆ 近隣の小学校との連携は行事等の教育活動の合同実施にとどまらず、質的な充実をより一層図ることが必要である。具体的には、全国学力・学習状況調査を活用し、生徒の学力に関する課題や互いの学校の取組等を共有し、教育課程の編成に反映することが重要である。また、互いの授業を見合った後、協議の場をもつような校内研修を実施し、学習指導の方法や生徒の家庭学習習慣の確立に向けた取組を検討・共有したりして、生徒の学びにより一層、継続性をもたせるような工夫をすること等が考えられる。

(13) 家庭や地域との連携

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
73 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行ったか【「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計】	55.4	-0.4	+5.4

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

□ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合は、全国平均に比べ、やや下回っているが、前年度より増加している。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
72 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加しているか【「よく参加している」「参加している」の割合】	79.7	+2.2	-8.3

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

▼ 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加している学校の割合は、全国平均に比べ、上回っているが、前年度より下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行い、社会に開かれた教育課程の実現を目指すことが求められる。そのため、カリキュラム・マネジメントにより、効果的な教育活動の体制を整備する必要がある。

(14) 家庭学習

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
75 学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えたか 【「よく行った」「どちらかといえば行った」の合計】	98.0	+4.4	+6.0

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、極めて多く、かつ、全国平均に比べ、上回っており、前年度より増加している。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問：なし】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 家庭学習の取り組みせ方について、生徒、保護者への家庭学習に関するガイダンスを実施するなど、指導を行う必要がある。
- ◆ 家庭学習の課題については、教科書を活用し、予習、復習をよく行っている傾向があるが、文章を書かせたり、発展的な内容のものを課題として与えたりする取組については、課題が見られる。授業の題材に応じて、教科ごとに家庭学習の課題を調整するなど、生徒が無理なく取り組むことができたり、自分で学習する内容等を計画しながら進めたりできるような指導に今後とも学校・学年全体で組織的に取り組む必要がある。
- ◆ 一人一台端末を活用したオンラインでの家庭学習の在り方を模索する段階にある。

(15) 結果等の活用

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
78 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【「よく行った」「行った」の合計】	86.5	-6.2	+7.8

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 全国学力・学習状況調査の結果を、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度よりは上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問：なし】

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
78 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したか 【「よく行った」「行った」の合計】	86.5	-6.2	+7.8 ③
79 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行ったか 【「よく行っている」「どちらかといえば行っている」の合計】	77.0	-11.5	+0.4 ③
80 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行ったか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）【「よく行った」「行った」の合計】	50.6	-30.0	-4.9 ③

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- ▼ 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した学校の割合は、全国平均に比べ、下回っているが、前年度よりは増加している。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った学校の割合は、全国平均と比べ、大きく下回っている。
- ▼ 全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合は、全国平均と比べ、大きく下回っており、前年度よりも下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問：なし】

②今後の対策・指導

- ◆ 全国学力・学習状況調査の結果を他の調査と関連付けて分析したり、学校全体で教育指導の改善について研修する必要がある、結果については保護者や地域に公表するなど、社会に開かれた教育課程の実現に向けて取り組むことが求められる。

(16) 新型コロナウイルス感染症の影響

①概況及び課題

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上高かった質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	過年度との差
I-1 夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数（短縮授業・分散登校・学級単位の休業は含まない） 【10日未満の割合】	99.3	+4.5	+91.9 ③
I-2 短縮授業・分散登校の日数（学級単位の実施は含まない） 【10日未満の割合】	90.5	+6.6	+8.8 ③
Ⅲ-8 授業参観・学校公開をどのように実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	11.5	+9.0	新規

※「過年度との差」とは、本県の今年度と○数字年度の値の差

- 夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数が10日未満の学校の割合は、全国平均に比べ、上回っており、前年度より大きく上回っている。
- 短縮授業・分散登校の日数が10日未満の学校の割合は、全国平均及び前年度より、上回っている。
- 授業参観・学校公開を新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した学校の割合は、全国平均に比べ、上回っている。

【望ましい回答の割合が極めて高かった（概ね95%程度）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
I-1 夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数（短縮授業・分散登校・学級単位の休業は含まない） [10日未満の割合]	99.3	+4.5	+91.9

※「前年度との差」とは、本県の今年度と前年度の値の差

- 夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数が10日未満の学校の割合は、極めて高い。

【全国平均又は前年度県平均より5ポイント以上低かった質問】

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
II-1 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、教科書による学習（デジタル教科書を含む）を行ったか [基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合]	22.3	-11.3	新規
II-2 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、学校が作成したプリント等による学習（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）を行ったか [基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合]	25.7	-14.1	新規
II-3 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、教科書会社その他民間が作成したプリント等による学習（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）を行ったか [基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合]	22.3	-5.4	新規
II-4 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材を活用した学習（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を行ったか [基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合]	4.0	-10.3	新規
II-5 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、生徒の自由研究や自主学習ノートなどによる学習を行ったか [基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合]	25.6	-6.9	新規
II-7 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を行ったか [基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合]	2.8	-7.9	新規
II-8 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成し	2.1	-6.5	新規

た学習動画等を活用した学習を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】			
Ⅱ-9 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】	5.4	-5.5	新規
Ⅱ-10 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】	17.6	-7.2	新規
Ⅱ-11 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、同時双方向型オンラインによる学級活動（ホームルーム等）を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】	16.9	-11.5	新規
Ⅱ-12 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、ファイル共有機能等を活用した生徒による共同編集を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】	8.8	-5.5	新規

- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、教科書による学習（デジタル教科書を含む）を行った学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、大きく下回っている
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、学校が作成したプリント等による学習（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）を行った学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、教科書会社その他民間が作成したプリント等による学習（電子メールや学校のHP等を活用して配信する場合を含む）を行った学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」・「復習ノート」等の教材を活用した学習（教育委員会のHPで配信されている場合を含む）を行った学校の割合は、1割に満たなく、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、生徒の自由研究や自主学習ノートなどによる学習を行った学校の割合は、3割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を行った学校の割合は、1割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を行った学校の割合は、1割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツ等を活用した学習を行った学校の割合は、1割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を行った学校の割合は、2割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、同時双方向型オンラインによる学級活動（ホームルーム等）を行った学校の割合は、2割に満たなく、全国平均に比べ、大きく下回っている。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、ファイル共有機能等を活用した生徒による共同編集を行った学校の割合は、1割に満たなく、全国平均に比べ、下回っている。

【望ましい回答の割合が極めて低かった（概ね50%未満）質問】

質問事項及び【回答】	青森県	全国との差	前年度との差
Ⅱ-6 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、テレビ放送を活用した学習を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】	2.1	-2.5	新規
Ⅱ-13 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、民間のデジタル教材を活用した学習を行ったか 【基本的に全校、又は一部の学年・学級で実施の割合】	10.8	-0.8	新規
Ⅲ-1 体育祭・競技会・球技会を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	3.4	+2.1	新規
Ⅲ-2 音楽会・合唱コンクールを実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	5.4	+4.2	新規
Ⅲ-3 学芸会・文化祭を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	4.1	+2.8	新規
Ⅲ-4 遠足を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	4.1	-0.1	新規
Ⅲ-5 芸術鑑賞会を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	5.4	+2.0	新規
Ⅲ-6 職業体験活動を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	6.8	+0.8	新規
Ⅲ-7 集団宿泊活動（修学旅行も含む）を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	2.0	-1.3	新規
Ⅲ-8 授業参観・学校公開を実施したか 【新型コロナウイルス感染症の影響前と同じ内容・方法で実施した割合】	11.5	+9.0	新規

- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、テレビ放送を活用した学習を行った学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 臨時休業等の期間中、家庭での学習として、民間のデジタル教材を活用した学習を行った学校の割合は、1割程度である。
- ▼ 体育祭・競技会・球技会を実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 音楽会・合唱コンクールを実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 学芸会・文化祭を実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 遠足を実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 芸術鑑賞会を実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 職業体験活動を実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 集団宿泊活動（修学旅行も含む）を実施した学校の割合は、1割に満たない。
- ▼ 授業参観・学校公開を実施した学校の割合は、2割に満たない。

②今後の対策・指導

- ◆ 新型コロナウイルス感染症への感染防止に向けた臨時休業等への対応として、生徒の「学びの保障」を確実に進めることが必要である。一人一台端末などのICT機器を活用し、新型コロナウイルス感染症対策と学びの保障の両立を図り、新しい生活様式を踏まえた学校教育活動を実施していくことが求められる。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症対策として、外部や大人数が集まる行事等の実施した学校が少ないが、全国と比べると多いため、各校で工夫して実施し、生徒の学ぶ機会を設けている実情が伺える。今後も感染防止対策を図りつつ、授業や行事等の充実を目指していくことが求められる。